

## 喘息発作

2005年11月11日(金)

3歳の保育園児が保育園で喘息発作を起し、病院へ受診、ステロイド剤の治療を受け、一晚入院。

退院後すぐにファミリーカイロに来院。発作は治まっていたが、原因は保育園での人間関係だった。

前日までなんともない子供が、突然、喘息発作を起すには必ず原因があるはずである。

そのほとんどが、「こころの叫び」である。

大人でも子供での、いや動物でも自然に病気になって、体の症状を発するには必ず理由がある。

その本質はからだの構造的メカニズムの問題ではない。

そのメカニズムはあくまでも結果であり、本質的原因はこころとからだのバランスにある。

そのこころの原因に問いかけて、原因を開放させないでいると、症状がぶり返し、薬の量が増やされ、自分で治そうとする力（自然治癒力）がどんどん弱まり悪循環を繰り返す。

事故や強い感染症以外に自然に発生する病気のほとんどの原因が、こころとからだバランス関係であり、潜在的な「こころの叫び」である。

「からだの叫び」は「こころの叫び」であるという認識が当たり前になるような社会にならない。

こどもが発熱したり、咳や鼻水の症状がでた場合は、風邪を引いた、風邪をうつされたなどと、病名だけで片付けないことが必要だ。

そこには必ず「こころの叫び」が隠されているということをもっと多くの人に理解してほしい。